

# ゆくはし 今昔物語

来年、市制 70 周年を迎える行橋市。山や海に囲まれ、京築地域の中核として人が行き交い、歴史と文化が育まれてきました。昔懐かしい行橋の風景や町なみの、「今」と「昔」をご覧ください。

## ～ Vol.7 行橋の学校給食

日本における学校給食の歴史は明治時代までさかのぼります。明治 22 年、山形県の町で弁当を持ってこられない児童のためにおにぎりなどを配ったのが最初とされており、大正時代には東京でパン給食が実施されましたが、戦争により中断を余儀なくされます。昭和 29 年の「学校給食法」の成立を経て、行橋ではその 20 年後の昭和 49 年に、全校学校給食が始まりました。子どもたちの健やかな成長を願い、今日まで続いてきた学校給食。今回は、行橋におけるその変遷を年表で紹介합니다。

日本の学校給食の始まり

**大正 8 年 (1919)**

「栄養学の父」と称される佐伯矩の支援で、東京でパン給食を実施

**昭和 20 年 (1945) 終戦**

戦後の食料不足により、栄養不足・欠食児童が増加

**昭和 29 年 (1954)**

「学校給食法」成立  
小・中学校と義務教育を通じて学校給食を実施する、学校設置者による努力義務が明文化

**昭和 44 年 (1969)**

仲津小、完全給食

**昭和 54 年 (1979)**

第二給食センター開設（勝山町大久保）  
近隣の稗田小、今川小、中京中の 3 校は第二センターから配食

**平成 20 年 (2008)**

「学校給食法」の改正  
「食育基本法」（平成 17 年制定）を受け、成立以来 54 年ぶりに大幅に改正

**明治 22 年 (1889)**

山形県鶴岡町（現・鶴岡市）の私立忠愛小学校で、おにぎり、焼魚、つけものなどを配食

**第 2 次世界大戦勃発**

給食中断

**昭和 24 年 (1949)**

仲津小でおかずのみの学校給食がスタート

**昭和 32 年 (1957)**

仲津小が取組みの研究発表を行い、翌年に県から表彰を受ける

**昭和 38 年 (1963)**

稗田小で主食とおかずの完全給食が始まる

**昭和 49 年 (1974)**

行橋京都給食センター開設（中津熊）  
勝山・豊津・犀川町との共同事業で仲津小・稗田小以外の 13 校でも給食が開始

**平成 16 年 (2004)**

市内では年間 190 日の配食、1 日あたり約 8,400 人分の給食を調理  
// 1 食あたり、小学生 215 円・中学生 255 円 //

**平成 26 年 (2014)**

行橋市防災食育センター開設（東大橋）  
みやこ町が町単独事業に転換、センターの設備老朽化もあり、蓄電設備を備え災害に強い新センターが完成  
// オール電化で 7,000 食分対応 //



**昭和 50 年頃**  
行橋で学校給食が始まった頃は主にパン給食でした。



「黙食」は無くなりましたが、コロナ禍の影響で班をつくらず、各自の机で食べるのが基本

**令和 5 年 (2023)**  
仲津小の給食風景  
米：パン＝3：1で、月に1～2回ほど麺類が提供されています。

防災食育センターでの学校給食提供が始まって、早くも来年で丸 10 年。この間、コロナ禍やフードロス対策などの SDGs の普及・啓発、また近頃の物価高騰もあり、今現在、学校給食はひとつの変革期を迎えています。